

	北波多小学校 学校だより35号	<h1>北波多小だより</h1>	令和8年2月5日発行 文責 校長 川原 悟
---	--------------------	------------------	--------------------------

## 授業参観ありがとうございました！

先月の27日（火）は、寒い中に授業参観へ来ていただき、ありがとうございました。ご多用中にも関わらず、参観者も9割を超え、常日頃から関心いただいていることに有難く感じました。

授業参観では、学習したことを発表する学級も多く、少し緊張気味の子供たちの様子がうかがえました。また、玄関前には今年度作った1年生から4年生までの焼き物の作品を展示していました。並べて見ると、改めて焼き物づくりの良さや面白さを感じました。唐津焼発祥の地である北波多ならではの取組であり、素晴らしいと思います。



今年度も昨年に引き続き、できるだけ通常の授業参観に戻して実施してきました。年間を通して、いつも多くの保護者の皆様に参観いただきましたことに感謝申し上げます。次年度も感染症対策に気を付けながら実施していきます。

## 情報活用能力の向上

情報活用能力とは、情報及び情報手段を主体的に選択し活用していくための基礎的な力であり、令和2年度から実施されている学習指導要領には、言語能力と同様に「学習の基盤となる資質・能力」と位置付けられ、育成することが明記されました。特に、デジタルの負の側面にも対応しながら情報技術を自在に活用して課題解決ができる人材の育成が求められています。

ただし、単に情報を収集・整理したり、発信したりする技術面だけでなく、情報モラルや責任等に関する取扱い方やコンピュータの仕組み、データを活用する等の情報の特性を理解することも大切にしなければいけません。

本校でもいろいろな教科や場面において、コンピュータを活用した学習を行っています。学年によって活用の頻度や内容は違っていますが、1年生でもIDとパスワードを入力してタブレットを立ち上げたり、簡単な操作をしたりすることはできています。

コンピュータの活用は、私たちの生活には無くてはならないものになり、ここ数十年で働き方やライフスタイルも大きく変化してきました。自動掃除ロボット、ネット注文、自動車の自動走行、タッチパネルシステム等…数え切れません。子供たちが大人になる頃には、さらに大きく変わることが予想されます。だからこそ、社会の変化を前向きに受け止め、主体的に向き合い・関わり合い、自らの可能性を発揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となるための力を育むことができるように取り組まなければいけないと考えています。



2040年の未来予測 文部科学省